PTW-1002(08073)

施工説明書

INAX

トイレーナ R

※品番は代表的なものを例示
便 器　TWC-3　　タ ン ク　TWT-3A
TWT-3B

このたびは当社商品をお買い求めいただき、誠にありがとうございました。

注意
- この施工説明書をよく読み、正しく本商品を施工してください。
- 施工後は必ず試運転を行ってください。
- お客さまに必ず本書と取扱説明書や保証書をお渡しください。お渡しするときは、使用方法をご説明ください。

安全のために守ってください！

便器を安全に取り付け、使用時の事故を回避するための注意事項をあげさせていただきます。
施工前に、この項目をよくお読みいただき、事故のないように正しく取り付けてください。

用語の説明

警告・・・ 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。

注意・・・ 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

⚠ 警告

ヒーター等電気を使用する場合、バスルーム内など湿気の多い場所には、設置しないでください。
※感電・火災の原因となります。
（水場使用禁止）

換気扇の電源は防水型コンセントを使用してください。
※感電・火災の原因となります。
（指示実行）

⚠ 注意

陶器は割れものです。
- 施工前に輸送中の破損がないことを確かめてください。
- 施工後に施工段階での破損がないことを確かめてください。

（指示実行）
※ 破損部でケガをしたり、漏水により室内浸水の原因になります。

給水タンクからのオーバーフロー配管は、内径 20 以上で施工してください。
※ あふれて、室内浸水の原因になります。
（指示実行）

サプライ管の接続は確実に行ってください。
※ 漏水し、室内浸水の原因になります。
（指示実行）

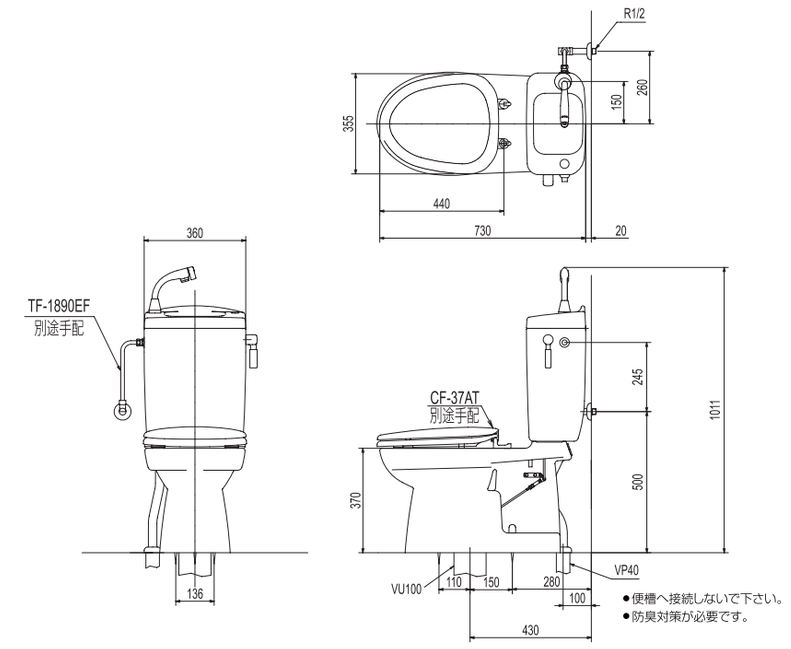
止水栓の調節と施工後の漏水点検を必ず行ってください。
※ 漏水し、室内浸水の原因になります。
（指示実行）

お客さまにお渡しするまでに凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。
※ 凍結破損で漏水し、室内浸水の原因になります。
（指示実行）

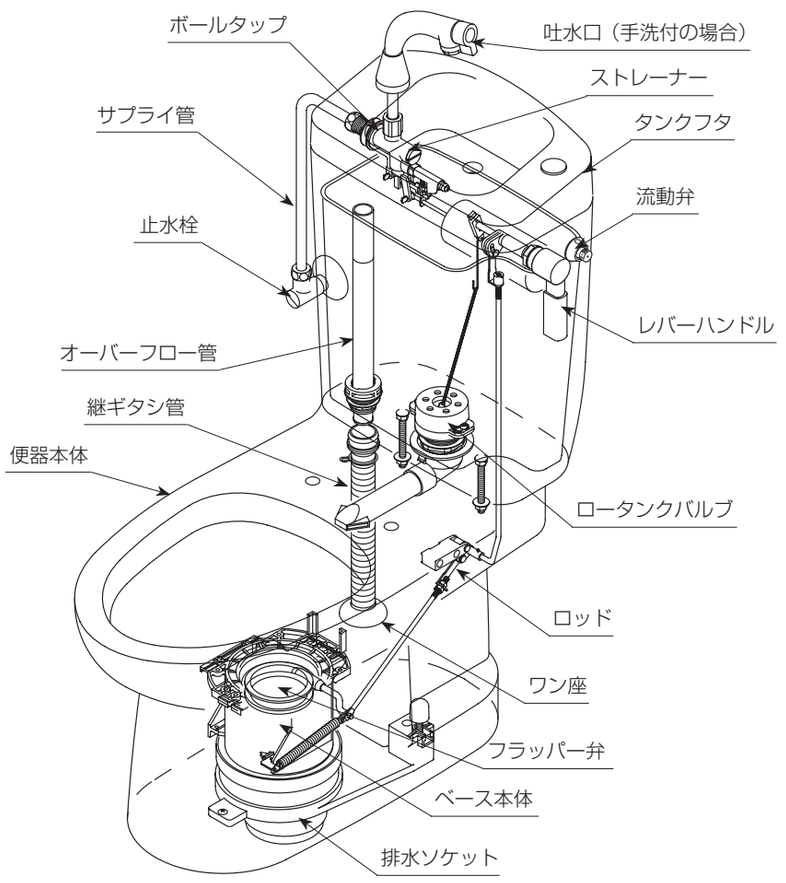
施 工 上 の 注 意

- 必ず便槽に接続してください。また、便槽の容量は 500L 以上のものを使用してください。
  ※4 人家族を基準とした場合、500L 未満だと汲み取り周期が 1 ヶ月未満となることがあります。
- 電気配線は、電気工事店に依頼してください。
- オーバーフロー管は絶対に便槽へは接続しないで、屋外へ出して施工してください。
  ※便槽内の水があふれる恐れがあります。
- フラッパー弁を解放したときに、便槽からの臭気が気になることがあります。その場合は別売の臭突管（BT-76R）の設置を行ってください。
- 便器を埋め込まないように、床工事を行ってください。
  ※修理ができなくなります。
- **オーバーフロー管の配管途中にトラップなどの防臭対策を必ずしてください。**
  ※屋外側溝より臭気が上がる恐れがあります。

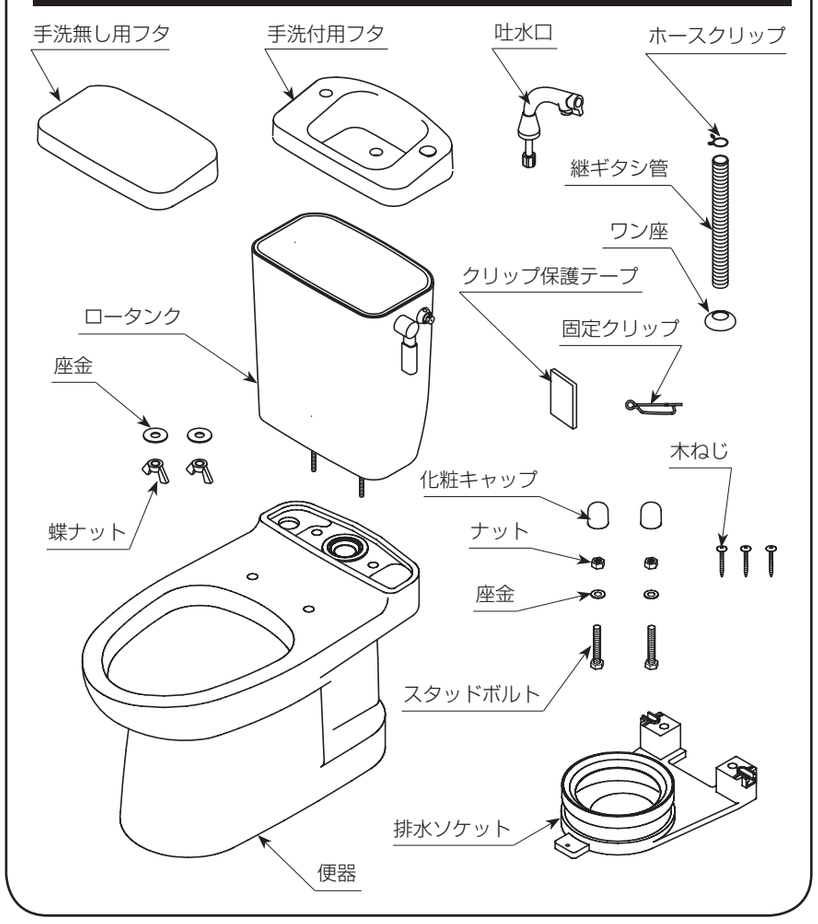
施 工 完 了 図



各 部 の な ま え



部品の確認（梱包内容を確認してください。）

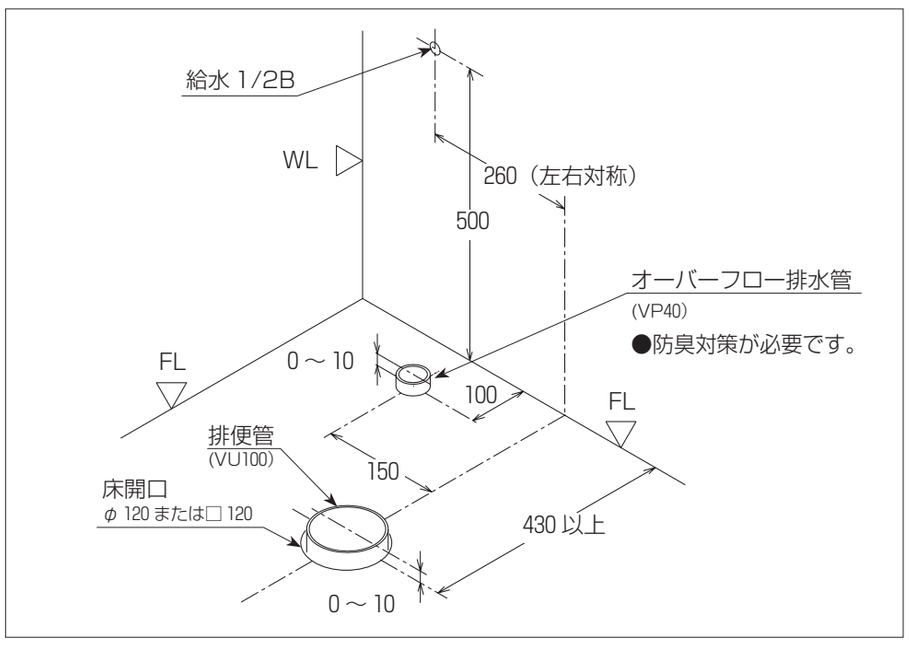


施 工 方 法

1 給排水の位置決めと立ち上げ

(1) 給水管、排水管を取り出します。
※ 右給水の場合は、排水管を中心に左右反対の位置に給水管を取り出してください。
（注意 1 参照）

(2) 排便管 (VU100) とオーバーフロー用排水管 (VP40) を床と平行に立ち上げます。
（注意 2 参照）
排便管：0 ～ 10mm
オーバーフロー用排水管：0 ～ 10mm

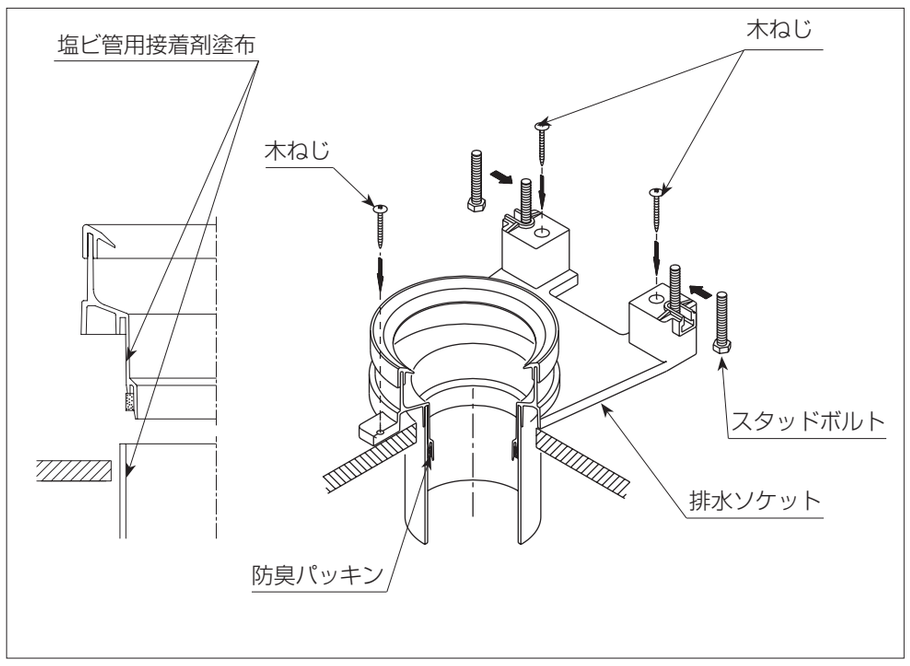


2 排水ソケットの取付け

(1) 排便管と排水ソケットの密着部をきれいにし、両方に塩ビ管用接着剤を塗って排水ソケットを差し込みます。
（注意 3 参照）

(2) 排水ソケットを木ねじで固定します。
床がタイルまたはコンクリートの場合、下穴（φ 9、深さ 60）をあけ、別売の AY ボルト（AY-84) を使用します。

(3) 排水ソケットにスタッドボルトを差し込みます。



注 意 1
- 便器を取り付けるまで、異物が混入しないように給水管にはプラグ（LF-7T を推奨）、排水管にはビニール袋等でカバーをしてください。
- 給水管はぐらつきのないように、しっかりと固定してください。

注 意 2
排便管は、規定寸法で切断面が床と平行になるように切断してください。
※ 切断位置が正確でないと漏水、臭気発生の原因になります。

注 意 3
排便管と排水ソケットの接着は、確実に行ってください。
すき間、ガタがある場合は、シリコンシーラーを使用してシールしてください。
※ 接着が不十分ですと漏水、臭気発生の原因になります。

商品・施工方法についてのお問い合わせは、(株)INAX　お客さま相談センター商品相談窓口　ナビダイヤル TEL 0570-017173

お客さま相談センター商品相談窓口は、平日「9:00～19:00」対応、土日・祝日「10:00～18:00」対応（年末年始、夏期休暇は除く）となります。
※ ナビダイヤルは、PHS・IP電話などからはご利用できません。TEL 0562-31-0793 をご利用ください。

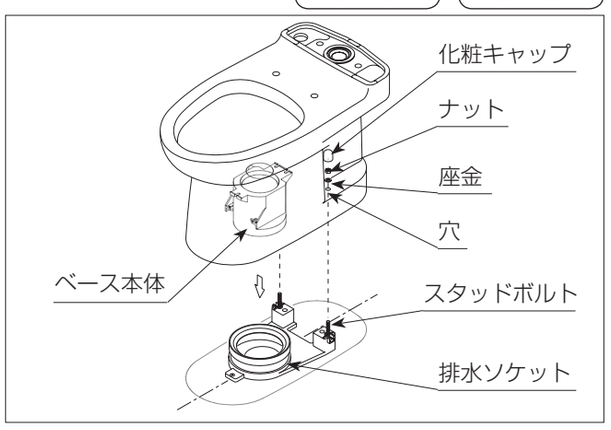
3 便器の据付け

(1) スタッドボルトと便器の穴を合わせながら、ベース本体を排水ソケットの中に差し込みます。

注意 4 参照

(2) 座金・ナットで固定し、化粧キャップをかぶせます。

注意 5 参照　注意 6 参照

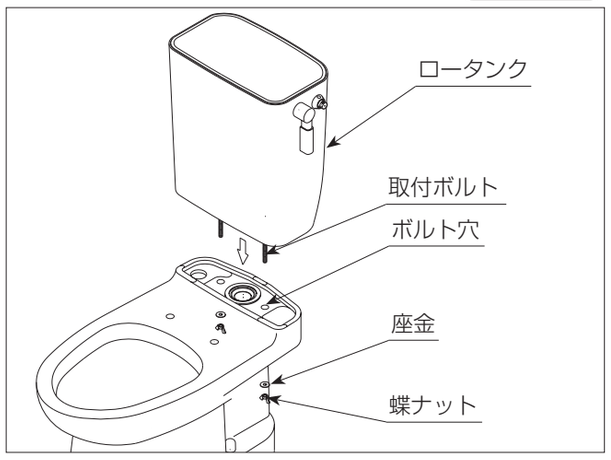


4 ロータンクの取付け

(1) ロータンク下面にある取付ボルト 2 本と便器のボルト穴を合わせてロータンクを設置します。

(2) 座金・蝶ナットでロータンクを固定します。

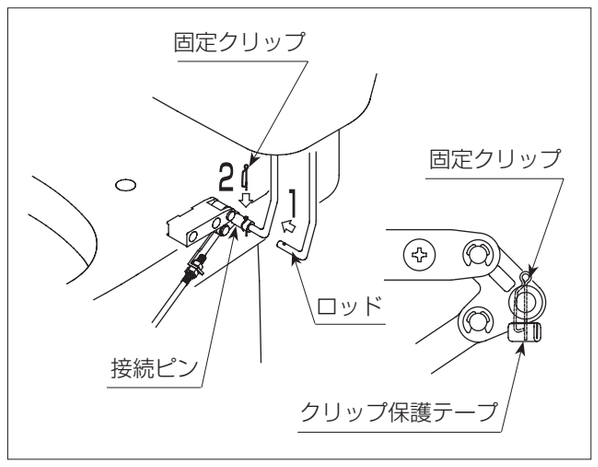
注意 7 参照



5 ロッドの接続

(1) ロッドを接続ピンに差し込み、接続ピンの穴とロッドの穴を合わせます。

(2) 固定クリップを穴に差し込み、クリップ先端にクリップ保護テープを貼り付けます。



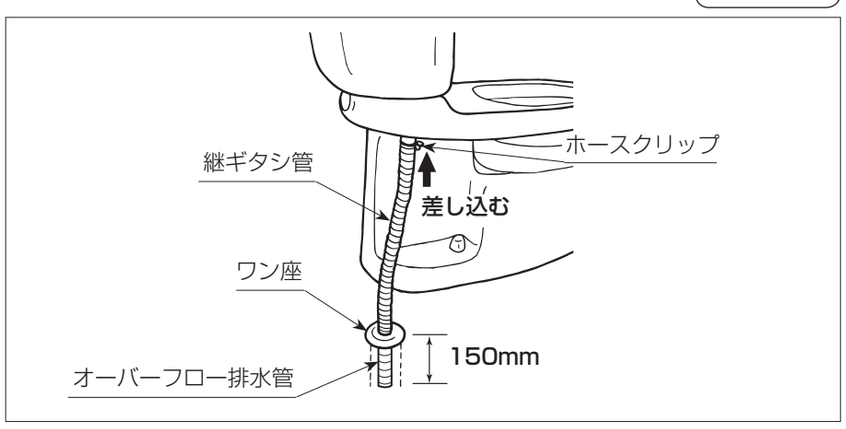
6 オーバーフロー管の接続

(1) 継ギタシ管を便器に差し込み、ホースクリップで確実に止めます。

(2) 継ギタシ管を必要な長さに切断します。

(3) 継ギタシ管にワン座を入れ、オーバーフロー排水管に差し込みます。

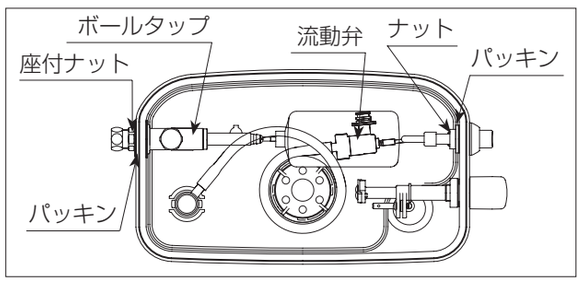
注意 8 参照



7 ボールタップの付け替え（右給水の場合）

(1) ナット・パッキン・流動弁を外します。

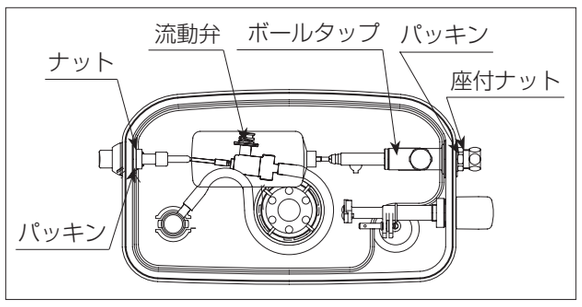
(2) 座付ナット・パッキン・ボールタップを外します。



(3) 座付ナット・パッキン・ボールタップを流動弁の付いていた穴に取り付けます。

(4) 反対側にナット・パッキン・流動弁を取り付けます。

注意 9 参照



8 止水栓・サプライ管の接続

(1) 壁面に取り出した給水管に止水栓を取り付けます。

※止水栓を給水管に取り付けるときはねじ部にシールテープ等のシール材を巻き付けてください。

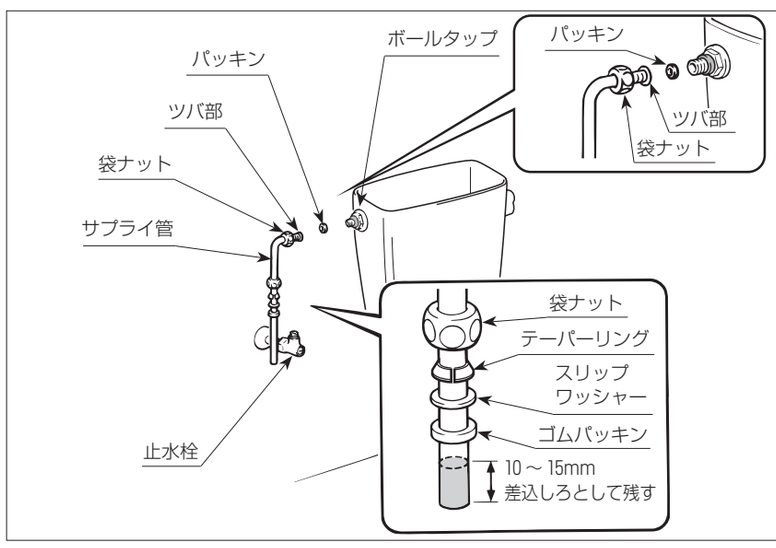
(2) サプライ管をボールタップに仮組みします。

(3) サプライ管を止水栓に合わせ、差込みしろとして 10 ～ 15mm 残してサプライ管を切断します。

注意 10 参照

※差込みが不十分ですと、漏水の原因になります。

(4) サプライ管を止水栓とボールタップに接続します。



⚠ 注 意

●止水栓の袋ナットは、締付トルク 10 ～ 15N・m {100 ～ 150kgf・cm} で締め付けてください。

※ 締め付けが不十分ですと漏水の原因になります。

指示実行

⚠ 注 意

● ボールタップが回転しないように手で固定しながら袋ナットをしっかりと締め付けます。

※ ボールタップが回転すると浮玉がタンク側壁と干渉して止水不良の原因になります。

指示実行

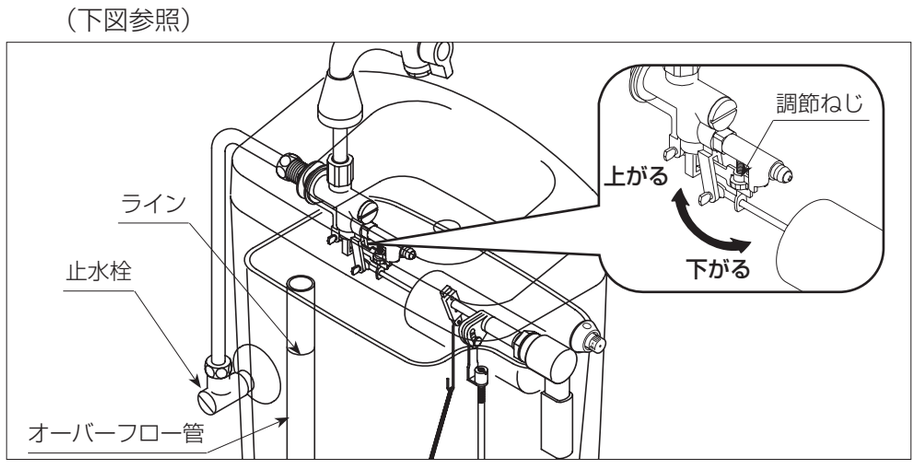
9 止水位の確認 止水栓の調節

(1) 手洗付の場合は、吐水口を仮接続します。

(2) 止水栓を開けてロータンクに通水します。

(3) 給水が終わったらロータンク内の水位（水面）がオーバーフロー管のライン（上から 20mm）に合っていることを確認します。

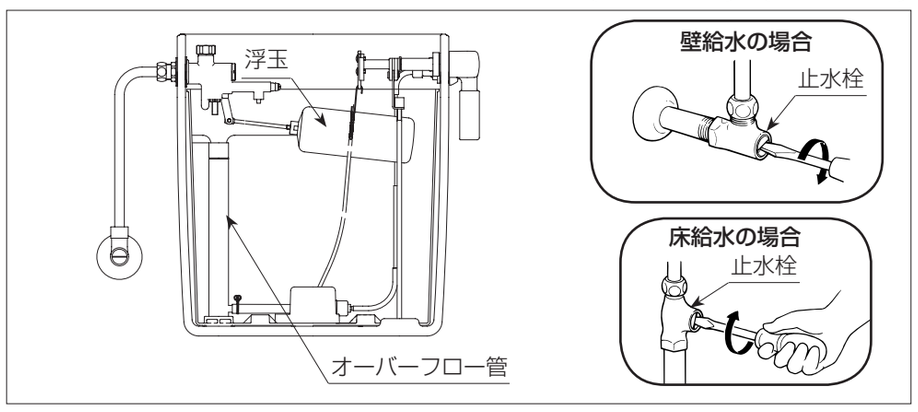
※水位がラインに合っていない場合は、調節ねじで水位を調節します。（下図参照）



(4) ボールタップの浮玉をいっぱいに押し下げて通水します。

(5) 水面がオーバーフロー管の上面より、10mm 以上上がらないように止水栓を回して流量を調節します。

注意 11 参照　注意 12 参照



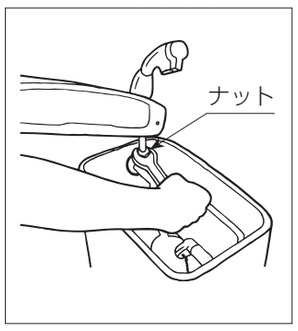
10 ロータンクフタの取付け

(1) 手洗付の場合は、一端止水栓を閉めます。（どの位回したか、覚えておいてください。）

(2) ロータンクフタを載せます。

(3) 吐水の方向がフタの中央になるように、吐水口の溝を合わせます。

(4) フタを持ち上げ、吐水口のナットを締め付けます。



11 点検

（1） 便器鉢内およびタンク内の切り屑、ゴミ等を取り除いてから止水栓を開けます。

（2） ロータンク内に水を入れ、各接続部に漏水のないことを確認します。

（3） 取扱説明書の「ご使用方法」に従って、レバーハンドルを操作し、フラッパー弁の開閉、水の流れ具合、排水に異常がないことを確認します。

（4） この商品は、流動弁が搭載されています。防臭対策にトラップが設けられている際は、流動弁を ON にして、

注意 13 参照

トラップに水をためてください。

（5） 施工完了時にタンク側面にある流動弁ボタンが OFF になっていることを確認してください。

注意 13 参照

注 意 4

ベース本体を確実に排水ソケットに差し込んでください。

※不十分ですと臭気漏れや便器のガタツキの原因になります。

注 意 5

陶器に対するねじは締めすぎないようにしてください。

※陶器が割れる恐れがあります。

注 意 6

ベース本体と排水ソケットを接着したり、便器をモルタル等で埋め込まないでください。

※メンテナンスができなくなります。

注 意 7

ナットの締付けは片利きのないように左右交互に少しづつ行ってください。

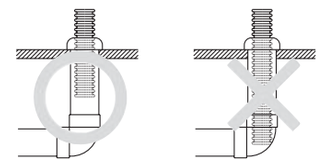
※ 陶器が割れる恐れがあります。

※ 漏水の原因になります。

注 意 8

継ギタシ管をオーバーフロー排水管に、奥まで入れすぎないでください。

※ エルボに当たり、スムーズに排水されない恐れがあります。



注 意 9

流動弁のホースは浮玉やロータンクバルブに当たらないように取り回してください。

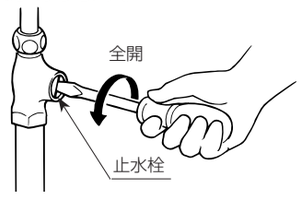
※ 水が流れっ放しになる恐れがあります。

注 意 10

- **サプライ管のつば部は絶対に切断しないでください。**
- **サプライ管の切断は必ずパイプカッターを使用し、切断後は必ず水洗いなどで完全に切粉を取り除いてから接続してください。**

注 意 11

- **水抜栓と止水栓が両方ある場合、止水栓は必ず全開で使用してください。止水栓を絞ると水が抜けきれず、凍結する恐れがあります。**



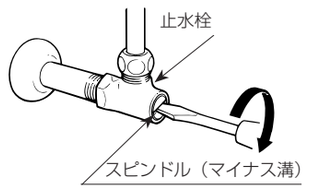
- **水抜式の場合、止水栓を使用しないので調節できません。**

注 意 12

- **止水栓の調節は必ず行ってください。**
  ※ 漏水により家財等をぬらす恐れがあります。
- **止水栓のマイナス溝は樹脂製ですので、傷をつける恐れがあります。以下の点に注意してください。**

※ マイナス溝にあったマイナスドライバーを使用してください。

1. **止水栓を閉めておきたい場合は、次の要領で閉めてください。**
   （1） はじめに軽く閉めます。
   （2） スピンドルが止まったところから、さらに約 1/4 回転（目安）ほど締めます。



2. **止水栓を全開にする場合は、固着を防ぐため必ずスピンドルを全開の位置から半回転戻しておいてください。**

注 意 13

- **トラップに水をためるときは ON 状態にしてください。**

ON 状態

- **施工が完了したときは OFF 状態にしてください。**

OFF 状態